

平成 26 年度大阪府立視覚支援学校 第 3 回学校協議会 記録

1 日 時 平成 27 年 2 月 19 日 15:30～17:00

2 場 所 大阪府立視覚支援学校 校長室

3 次 第

- (1) 校長挨拶
- (2) 協議
- (3) 報告
- (4) 次年度について
- (5) 准校長謝辞

4 協議事項

- (1) 平成26年度 大阪府立視覚支援学校 学校教育自己診断について
- (2) 平成26年度 大阪府立視覚支援学校 学校評価について
- (3) 平成27年度 大阪府立視覚支援学校 学校経営計画について

5 協議内容

(委員) 質問項目に「必須」・「独自」と説明があったが、「必須」項目については他の支援学校も同じように質問されているのか？

(事務局) 質問の文章が変わるかもしれないが、府教委から同じ内容を聞くようになっている。

(委員) ICTを利用した部分について、回答をしっかりと分析して、今後につなげていく。視覚障がい状況によっても意見が違ってくるのではないか。

(事務局) 文部科学省の事業で高等部において拡大教科書の利用を行っており、視覚支援機器としての部分が大きいように思う。全盲・重複障がいのある生徒の利用について、iPadよりPCの方が利用しやすい部分もあるだろう。iPadを利用したいという意見も自由筆記にあり、どのような使い方をしていくか、今後も検討していきたい。  
また、在籍者の約半数が専修部。専修部では十分使われていない部分もあり、全体の数字を下げているのではないだろうか。

(委員) 人権教育について、幼小学部で肯定的評価が下がっているように思われる。

(事務局) 幼小学部内では、昨年度より部内研の回数を増やすなどの対応は行っている。

(委員) 今までより先生方の意識の高まりがあるのではないだろうか。

(委員) 授業に関する質問について、教職員の回答が自分自身の授業の内容なのか、一般的な授業なのか、わかるか？

(事務局) 質問は内容を限定していないので、回答者によっては変っているのかもしれない。

(委員) 地震の際、机の下に隠れるように言われていたが、ヘルメットはどのような場面で使うか？

(事務局) 揺れている時は机の下に避難するよう指導している。外部への避難の際にかぶるようにしている。臨床室にも防災ずきんを設置している。

(委員) 就労支援について 情報処理科・音楽科がなくなり、柔道整復科が新設される。卒業後2・3年先のことについてアンケートを実施すると、就労支援の参考になるのではないだろうか。

(事務局) 専修部で卒業後の指導の在り方について研究してもらっている。就労されている方でも、就職先で研修を受ける機会があるところもある。卒業生からも「考えてほしい」と言われている。いくつかの方法を検討しており、何らかの方法で実施に移せたらと考えている。

(委員) 障がい者差別解消法、合理的配慮について新たなものを学校で考えているか。すでに十分できているだろうか？

(事務局) 一律に行なうのではなく、個別に行なっていく必要があるだろう。本校に点字使用の職員がいることから、府教委から全員配布する資料について点字資料を要求した。他の部署にも点字使用の職員がいることを担当者へ伝えている。

(委員) 縦と横の連携、地域との連携について 視覚支援における縦と横の連携について、どのようなものがあるか？

(事務局) 小学部は在籍者数が少なく、地域とのつながりが少ないことから、居住地校交流を行なっている。また、巡回相談や地域の視覚障がいのある児童生徒が本校へ来る行事（サマースクール）を実施している。「支援学校へ行くと地域の子どもではない」と思われることもあり、そうではないことを地域へ発信している。

(委員) 海外の学校では、触覚を使ったICTが多く見られた。視覚障がいの学校ならではのICTについても研究してほしいと思う。また、視覚支援学校は歴史がある学校が多いが、iPadだけではなく、伝統的なものの利用についても検討してほしい。また、机上だけではなく、さまざまな場所での使用にしても考えていただければと思う。

## 6 報告内容

- (1) 新校舎建設の進行状況について
- (2) 創立100周年記念実行委員会について
- (3) 事務局より

## 7 今後のテーマと開催予定について

### 第1回

- ・テーマ
  - ① 平成27年度 学校概況について
  - ② 平成26年度 学校評価報告
  - ③ その他
  
- ・開催日 5月を予定